

2024年度 池上どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

I. 2024年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

日々の生活や日課の継続の充実した実施を目指し、子どもの姿、考え、言動から保育の計画を立て、子どもの主体性を重んじた環境構成の構築を行うようにした。昨年度の年長児の姿を見て、今年度の年長児は4月から率先した行動を見せていました。また、年度途中からも様々な児が友だちや年長児の真似をする等して生活を作り出していた。

日頃から子ども同士での対話を促すようにしたこと、生活や行事を子どもたち自身で中身を決めていく姿があった。また、自分たちで生活に必要なことを見つけ行動する子どもが増えた。

自然体験活動の機会も職員が主体的に行動し、機会の創出や実行に励んでいた。

インクルーシブ保育の実践は、職員の認識やスキルが足りていないことがしばし見受けられ、園内でエピソード研修を通して引き続き学び、スキル向上に努めるものとする。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの姿を多角的にとらえ、適切な援助を考える
	実践結果	<p>異年齢保育の中で多く職員の視点から子どもの育ちを見て、必要な遊びや援助を伝えあい保育をするべきであったが、クラス毎での活動の機会がまだまだ多く、より多角的していく必要がある。園内研修内で子どものエピソードから成長を読み取る機会も用意したが、施設長以外の職員がメインで研修を行った際、必要な情報等が足りなく、十分な話し合いにならなかったことがあった。</p> <p>ドキュメンテーション作成の機会が減った。保護者に子どもの姿を伝えたり、保育参加に誘ったりしていく中で成長を伝える必要があったが、そこも十分ではなかった。</p> <p>職員が主体的に活動や遊びに取り組んでおらず、子どもが遊びの幅を広げるなどの成長の機会を十分には作れていなかった。</p>
	次年度方向性	<p>ドキュメンテーションやポートフォリオを作成し、より子どもの姿、成長を伝える他、継続して保育参加や保護者参加行事に参加していただけるようにしていく。</p> <p>子どもに必要な環境や関わり、援助を考えていくにあたり、必要な職員の行動原理を定め保育にあたる。</p>
2	計画・ねらい	子ども自身が周囲の環境に働きかけ、生活を作っていく
	実践結果	<p>自分で自身の所属するコミュニティを良くするために、異年齢、同クラス、様々な形態での話し合いの場を職員が用意していたほか、子ども自身でも少人数から大人数まで発達に合わせて話し合いをしている。</p> <p>異年齢保育の中で、友だちや年長児の姿を見て自分でもやってみよう行動する姿が見られた。やりたくてもできないことがあった際、自然とで</p>

		きる子が手伝っている姿があった。 幼児は散歩先や行事の内容などを子どもたちの意見の中から拾い上げたり、話を広げていったりしながら、年間の日程を進めていくことができていたが、時折大人の都合で止めてしまうこともあった。職員の子どもへのファシリテートについても考えていきたい。
	次年度方向性	I、2歳児の異年齢保育の在り方を変え、すべての園児がすべての友だちと過ごすことのできる環境を用意していく。 スタッフは黒子になり、子どもの発達段階を見極め、生活を譲り渡していくようにしていく。
3	計画・ねらい	保育士・栄養士・用務など、全職員で充実したチーム保育を行う
	実践結果	担任は2週間先の計画を立てて異年齢保育を設定していたが、自クラスの子が多いグループに担任が固まるなど、全クラスを満遍なく見ようとしていた者が多かったです。 『受援力』という言葉を用い、職員同士協力して物事にあたるように目標を立てていたが、経過を最後まで追うようなフォローにまでは至っていないことが多くあった。
	次年度方向性	子どもが誰とでも遊んだり、散歩場所を決めたりすることのできる環境を用意していく。 専門知識を持って働く職員としての存在意義を自覚し、知識や経験を園内外問わず多くの人たちに伝えていき、とも育ての意識を持ちながら保育を行っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日頃から保護者とのコミュニケーションを通じ信頼関係を築き、相談・助言を求めやすい、開かれた園づくりを行っていく
	実践結果	登園時は子どもの気持ちを受け止めながら受け入れをしたが、体調面で保護者に迷いが生じていた際は、園や地域で流行っている風邪症状をお伝えするなどして、判断がしやすくなるようにした。 お迎え時は子どもの様子を極力細かく伝えるようにしたが、十分でなかったご意見や話が長くて待っている保護者の時間が長くなってしまったこどももあった。 園生活のみならず、家庭においての子育て、しつけ、遊びに関しても、求めに応じて個人面談の場を設けるようにし、特に後期は気を遣わず面談をしやすい取り組みを行った。
	次年度方向性	子どもを安心して預けやすいような環境や保護者との人間関係を適切に作れるようにしていく。 保護者様に子どもの様子を伝えやすくなるような、職員配置をシフト作成時から考えていく。
2	計画・ねらい	園生活や子どもの理解を深めていただくために保育内容の可視化
	実践結果	保育に関わるドキュメンテーションやポートフォリオの掲示の機会が十分ではなかった。また、それを保育の振り返りに使用して、対応や保育を

		深めていくこともできなかった。 食育関係のドキュメンテーションは栄養士中心に作成されており、計画的に活動も行えていた。
	次年度方向性	期毎にドキュメンテーションやポートフォリオを作成し、保護者や他の職員に子どもの育ちを伝えていけるようにする。 食育についても保育士と意見を交わしながら作成できるとよい。
3	計画・ねらい	実際に園行事や保育参加をしていただくことで、園での実生活を体験して頂き、理解や関心を高めていく
	実践結果	園行事や保育参加への積極参加の呼びかけを行い、リピートしてくれる保護者も多くいた。 また、どろんこサポーターの活動も地域向けに発信するようになった。
	次年度方向性	異年齢保育やインクルーシブ保育についての理解等、もっと保育に興味を持っていただける内容にし、保育士の地位向上についても考えていくようにつなげたい。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園の取り組みを地域に発信し、園や法人の活動の認知を広げる
	実践結果	商店街ツアーでお世話になっている店や町内会の掲示などにより広く園のとりくみや行事を知らせた。郵便局職員が行事の際に来園していただったり、地域の方がどろんこサポーターズの規格に参加していました。 ブログなどにより保育活動を発信していました。 今年度よりヤギの散歩を再開した。
	次年度方向性	地域向けの発信を強化していく。来年度は散歩先の公園の方々や地域の保育所とより密接になり招き入れていく。 ヤギの散歩を安全に行い、継続できるようにしていく。
2	計画・ねらい	青空保育により近隣の方に保育に対する興味、関心を持っていただく
	実践結果	月1回 佐伯山緑地にて実施した。昨年度と場所を変えたが参加人数が大幅に変わったとは言えなかった。
	次年度方向性	実施先の公園を変更し、駅前のより人が集まりやすい場所で実施していく。
3	計画・ねらい	園見学や園庭開放等、園に足を運んでいただく
	実践結果	園に来園された方の人数は年々増加している。また、新入園児の多くが実際に見学に来ていただいたかたであった。 また、園庭行事では園の前を通った方にお声掛けし、一緒に参加してもらうこともあった。
	次年度方向性	集客の多かった行事の地域への発信方法を再考し、より多くの方に足を運んでもらうようにする。 園庭開放で何ができるかなど、わかりにくいものを可視化できるようにしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標や個人のMBO達成に向けて、取り組みを明確化していく
	実践結果	園目標について定期的な振り返りを行なえていなかったが、目標について必要な事項は園内研修のテーマとして扱っていた。 MBOの達成に向けては、似た目標を持つ者同士が共同で取り組めるようにしたが、継続的な実践には至らなかった。 園長主任共に各職員の経過を十分には追うことができなかった。
	次年度方向性	毎月園会議の中で園目標を確認してからワークを行う。 MBOは2か月に一度途中経過を張り出すなど、細かく振り返りを行っていく。
2	計画・ねらい	基本方針に沿って、園内研修の中で様々なアクティビティを使用し、トライアル＆エラーしながら保育を実行し検証をしていく
	実践結果	施設長は毎日散歩同行を行うことで園内研修内のテーマ決定や職員面談の議題にあげ振り返りを行っていった。質問を重ね職員自身が気付きを多く見つけられるようにした。ただし、エラーに対して施設長から具体的なアドバイスを増やしていく必要があると感じる。
	次年度方向性	学びの機会や方法について再考する他、振り返りの機会を日常的に用意し、即改善にあたる必要がある項目に関しては経過を細かく追っていく。
3	計画・ねらい	法人内外の研修や交換研修を実施し、子ども理解、保育や保護者支援のスキルアップを図る
	実践結果	リーダー職員が、自主的に受けた研修を園内会議で職員に周知したいということが多く、インプットとアウトプットを実行していた。 法人のマニュアルに関する勉強会は、月替わりで職員が他の職員に園会議内で発表という形で学びの場を用意、実施した。
	次年度方向性	職員自身の学びの場を提供するべく様々な資源に目を向ける他、どのようにアウトプットするかのスキルを施設長から伝えていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畠の改良
	実践結果	コンポストでできた堆肥を活用し、野菜作りを行った。夏野菜はよく育ったが、冬野菜はモチベーションの低下もあり上手く栽培できなかった。 不要な木を掘り返し、畠を広くした。畠の栽培スペースの拡大はできたが、土が固く改良が難しい。 買い出し時期が種まきの時期に合っていなかった
	次年度方向性	毎月の給食運営会議で畠についての時間も設け、次月の畠のやり方について話し合うことでモチベーションの維持を図る。 堆肥の改良と土壤の改善を行い、土を柔らかくする方法を模索する。(有機物を土に混ぜ、定期的に耕す等) 全体への周知、発注が遅かったため間に合わなかった。前月の話し合い

		の段階で早めに周知していく。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 毎月コンポストを作り、完成した堆肥は畑に活用した。容器を段ボールから蓋つきのバケツにしたことにより、害虫の発生を防ぐことが出来た。 野菜の皮ごと調理に活用し、調理の際に出るゴミを削減した。 野菜くずはヤギの餌にし、調理の際に出るゴミを削減した。 食残渣のグラフを作成することで子どもたちの意識を高め、給食の食べ残しを減らした。子ども同士で声を掛け合う姿やグラフを気にしている様子が見られた。
	次年度方向性	<p>興味を持って取り組む子どもを増やすために、呼びかけの方法や興味を引くような方法を工夫していきたい。</p> <p>職員への進捗報告の引き続き給食運営会議内で行っていく。</p>
3	計画・ねらい	火・水・土に関わる体験強化
	実践結果	<p>畑で収穫した野菜を給食に活用したり、野菜を育てながら野菜の成長を感じたりすることができた。秋以降は野菜の育ちが悪かったこともあり、畑を通じて自然に触れ合う体験は減少してしまった。</p> <p>2階のテラスにグリーンカーテンを作成した。グリーンカーテンを通じて、葉の間からの木漏れ日や風の音などを感じることができた。ゴーヤの収穫も行えた。</p> <p>火の体験活動の回数を増やし、保護者も一緒に体験できるようにした。</p> <p>戸外から自然物を持込み、園庭での遊びを活性化させた。</p>
	次年度方向性	<p>日課を子どもたちに定着化させるべく、職員が積極的に活動に取り組む意識を持つようとする。</p> <p>身の回りの減少に興味が持てるような声掛けや体験を行っていく。</p>

〈6〉 子どもの人権を尊重した関わり

1	計画・ねらい	丁寧な保育の基本を徹底する
	実践結果	子育ての質を上げる会議や施設長勉強会内でも、子どもの人権研修を取り扱ったほか、虐待防止研修や保育のロールプレイング研修でも取り扱った。丁寧な保育とは、というテーマでディスカッションを行った。
	次年度方向性	マニュアルの読み合わせを行い、保育活動内のあらゆるところで応答的な保育を行う。
2	計画・ねらい	子どもの表現や言論の自由を守る

	実践結果	子どもの発信を大切にし、傾聴の姿勢や応答的な関わりを意識して通年保育を行っていた。 子ども同士での話し合いの機会を増やし、子ども自身で計画や決定しながら園生活を送っていた。
	次年度方向性	環境面で子どもが不自由を感じる場面に対し、職員と子どもたちで話し合い遊びを行いやすくしていく。
3	計画・ねらい	活動やドキュメンテーションを子ども達と振り返る
	実践結果	年度の前半はほとんどできていないが、集団でその日の振り返りと明日の活動の話をしていた。お迎え時に玄関掲示しているポートフォリオを保護者と一緒に子どもが見ている姿がある。
	次年度方向性	全園児の目に留まるところに掲示したり、皆で振り返りを行なったりして、明日の見通しを子どもたちが持てるようにする。また、活動を選択できるようにする。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	0人	10人	12人	15人	15人	15人	63人
年度後半： 10~3月	0人	10人	12人	15人	15人	15人	63人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	3人	3人	33人	3人	3人	3人	36人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	1人	1人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	5人

うち0歳児	0人											
-------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	4人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・子どものエピソード研修
給食運営会議	月1回	運営マニュアルに則り、旬な課題を協議（SDGs、畠仕事、保育士との連携も含む）
事故防止委員会	月1回	・1か月間のヒヤリハット、インシデントを分析・検証 特に検証しなければならない事例は時系列にて職員の連携、役割分担のさらなる明確化を図る。 ・他園の事案を自園に活かし未然に事故の防ぎ方を周知する。 ・旬な項目（SDGS,プール遊び、感染症、下痢嘔吐など）
ケース会議	12回	個別配慮児の状況及びスタッフの関わり方の確認、職員の意識統一
クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、園児の姿の共有
週案会議	週1回	保育の計画と振り返り、園児の姿の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	年度を通して感染症が多く、対策も十分とは言えなかった。自主的に行う職員も少なく後手に回っていた。事前に注意喚起を保護者宛に行うなど早期に対応していく。
安全対策係	安全計画の作成や保護者懇談会での計画の説明を行った。
防火管理者	避難訓練の立案、実施、反省、安全計画の策定
食品衛生管理係	食材の衛生管理・在庫確認と管理、残渣を減らすための取り組みの計画と実施。
畠係	畠活動を十分に日課として行うことができなかった。害獣からの被害の対策を行った。
生き物係	飼育動物やえさの管理、ネズミ等の害獣駆除を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	稟議作成から報告書作成、保護者や系列園との打ち合わせ等の実施を行った。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	戸外活動において、幼児クラスは長距離散歩を積極的に実施し、行先での目的やねらいを達成していた。乳児クラスは散歩への期待感が無くならないように、興味や関心に合わせて活動の設定や選択を実施していた。
保育参加	4~3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4~3月まで 合計51名 が参加済み (3月1日時点)
運営委員会	運営委員会を6月21日、11月22日に池上どろんこ保育園にて実施し、参加した保護者計6名 詳細は議事録に記載

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食べたいときに、食べたい場所で、食べたいだけ食べられるような環境作りを行い、食事の時間を楽しめるようにする
	実践結果	年齢に応じて盛り付け方法や配膳方法をと話し合い改善している。 散歩後の着替えの時間をずらして食事の時間を長くとれるようにした。子どもたちが、食事の準備を自分で行うことで、食事の時間を楽しみにしている。
	次年度方向性	毎月の給食運営会議で配膳方法・環境の見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に食に関わる活動を日々継続的に実行していく
	実践結果	ピクルス作り、紫蘇ジュース作りは、畑で栽培し収穫したものを使用できた。 計画では、ほかにも使用する予定があったが、収穫した量が少なくクッキングでは使用できなかった。 食事の準備や日課を通してトライアル＆エラーの機会が少なかった。
	次年度方向性	畑を改良してクッキングに使用する十分な量の野菜の栽培を行う。 計画にない活動でも子どもの言動から立案や実施をしていく。

3	計画・ねらい	保育士、栄養士は一体となり、専門性を活かして「食を営む力」を育むために計画と振り返りを行う。
	実践結果	保護者向けにドキュメンテーションの掲示は行ったが、職員間での共有はできていなかった。 「職を営む力」の概念が職員によって違うことがあった。
	次年度方向性	保育士と栄養士でドキュメンテーションを共有してアドバイスしあう。 次の食育活動の計画を立てていく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月19日/11月20日に実施
歯科検診	6月3日に池上どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月16日に園内会場にて手洗い指導を実施 ② 1月4,5日に園内会場にて性教育を実施
流行した感染症	① 11月にアタマジラミ、園児20名感染、大田区へ報告 ② 12月に、園児10名感染報告有り。12月28日に終息
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計5回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月19日に池上どろんこ保育園にてキックオフ研修を16名が実施済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、16名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況 (AED 設置施設のみ)	・8月10日に中目黒どろんこ保育園にて、上級救命救急講習を施設長、主任、管理栄養士の計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、3名が使用可能
その他保健に関する取組	アタマジラミが増えた際は、大田区保育課と対策を相談して拡大防止にあたった。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
------	---------------	-----------------------

	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (法定1回/3年)	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認/ 保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月19日、11月20日 歯科健診 各年1回/6月3日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉 実施した環境整備の状況

I	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する
	実践結果	子どもと散歩先を決めるなどを幼稚園クラスは基本に生活を送っていた。生活や遊びの中で、今現在大人がやってしまっていることを見直し、子どもが自分でできることは自分で行えるような導線や環境を考えた。
	次年度方向性	子どもから出た意見を可視化して全園児、職員がそれに取り組めるようにしていく。また、活動の振り返りを行っていく。

2	計画・ねらい	異年齢での保育を十分に行える環境を設定する
	実践結果	午後の園内活動では異年齢保育の良さが發揮されていたが、戸外活動での異年齢保育や幼児の活動の選択肢に乳児が無いなど乳児と幼児が分かれてしまうことが目立った。
	次年度方向性	フロアの違いや安全面が異年齢での関わりを減少させる理由とならない様、職員同士の安全に対する認識を共有し、子どもの発達から環境の見直しを図っていく。 異年齢保育のメリットを全職員で共通認識を持ち、子ども同士が関わる機会を増やすように努める。
3	計画・ねらい	安全対策や衛生管理を全職員で徹底して行う
	実践結果	子どもが安全に過ごすことができ、保護者も安心してお子様を預けられるよう整理整頓、清掃をこまめに行なった。 消毒に関しては徹底ができておらず、感染症に対して後手を踏む形となってしまった。 安全面に関しては、上級救命講習を受けたり、環境構成を変えたりして、けがの予防や緊急時に備えることができた。
	次年度方向性	上級救命講習受講職員を増やす。 ヒヤリハットやインシデントのまとめや振り返りを丁寧に行う。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし
2	配膳台	保育室	毎日	異常なし
3	箱椅子	定期利用室	毎日	異常なし
4	梯子・平均台	定期利用室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の作成と届出 ・毎月一回の避難訓練、消火訓練の実施 ・災害管理マニュアル、災害フローチャートの整備、確認 ・災害用の備品の管理と点検 ・安全計画の作成及び保護者への共有
2	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガ、事故防止の為の危機管理マニュアルの設置と理解 ・SIDSの防止策を徹底周知と定期的にロールプレーを行う ・事故報告簿、インシデント、ヒヤリハット ・与薬方法、アレルギー食の提供方法の徹底 ・保育士の上級救命救急資格取得、エピペン講習

3	実践結果	・危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施 ・カメラ付きインターホンでの防犯対策
4	実践結果	・光化学スモッグの知識の習得 ・光化学スモッグ注意報発令メールの配信システムへの登録

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の振り返り

今年度は3名の実習生の受け入れを行った。

昨年度と比較し学生との振り返りを多くとることができ、保育への理解や子どもの姿からの学びと一緒に考えることができた。実習期間にイレギュラーが発生することがあったが、最後まで完遂することができた他、保育業界への選考に進む学生もいた。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月13～26日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
7月4～5日	東京こども専門学校	1人	ボランティア実習
11月11～22日	簡野学園幼稚教育専門学校	1人	部分実習

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
10月2～4日	蓮沼中学校	4人
9月25～27日	大森第十中学校	4人
11月26～28日	大森第四中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 17名	10日 17名	14日 17名	12日 17名	16日 17名	13日 17名	11日 17名	15日 17名	13日 17名	10日 17名	14日 17名	14日 17名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
3月26日	大田区教育委員会	スタートカリキュラム研修	1名	有

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	18日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	17日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉 今年度方針・テーマの振り返り

毎週水曜日に商店街ツアーを実施し、今年度は様々な店で見学や買い物等を引き受けいただき、どのような職業や役割があるのかを直接見ることができた。

また、老人介護施設の方々と直接的な交流を持てるようになり、制作や手遊びを楽しむことができた。

〈2〉 実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：佐伯山緑地にて 参加延べ人数：31名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：花よし、郵便局、市野倉消防署、池上駅、市野倉交番、東急ストアー、養源寺、東急バス営業所、藤野屋、丸二青果、池上

	図書館、ごまのお店いい友、オオゼキ等
世代間交流	1月16日に池上どろんこ保育園にてどんど焼きを実施
異年齢交流	2月7日に池上第二小学校にて授業訪問を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 <3~5歳児> 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉 今年度の振り返り

学校公開日の一般開放でない日程で小学校訪問をし、授業参観や行事参観を実施させていただくことができた。

職員交流としては、大田区内で実施された保幼小研修に参加し、小学校までの接続や10の姿を中心とした子どものエピソード研修を行うなどした。

〈2〉 具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月7日	池上第二小学校	15名	池上第二小学校	子ども間交流
3月26日	大田区内の幼保小	100名	スタートカリキュラム研修会	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度は2名の支援計画を作成。

同法人内の発達支援センターとの連携を図り、保育の見学、子どもの観察、援助のレクチャーを受けることができた。

また、研修のテーマでインクルーシブ保育について取り上げる機会を増やし、職員同士で連携を取り、保育にあたるようにした。

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

- ・4~3月に計12回開催 参加者：毎月約10名

月の最終週の金曜日の昼礼にて、ケース会議を実施。スタッフ間で情報共有、意見交換をすることで、子ども理解を深め、個々に応じた援助が出来るようにしてきた。今後も継続して行うことにより、更に適切な援助が出来るようにしていきたい。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

5歳児クラスにおいては就学を見据えて全家庭の個人面談を実施。園での生活状況を伝えるとともに就学が円滑に行えるように援助してきた。2023年2月地域別に順次開催される、保・幼・小の連絡協議会に参加し、それぞれの小学校の担当教諭と、就学に必要となる情報共有、引継ぎを行った。在園児においては、保護者様の要望に応じて面談を実施したが、進級後も生活の様式の変化なども鑑みて、隨時面談を実施していくことを発信していく。

II. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
55名	88名	66名	51名	53名	63名	56名	67名	70名	56名	36名	8名	669名

実施項目	詳細											
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：669名											
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒ 計1件相談実施済み											
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒ 計1回実施済み 参加者延べ人数											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名 1名
どろんこ 芸術学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒ 計1回実施済み 参加者延べ人数											
どろんこ 自然学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 合計
	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名 0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置											
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行											
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：佐伯山緑地にて 以下日程にて実施											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 合計
	4名	5名	2名	0名	0名	4名	4名	6名	0名	6名	0名	0名 31名

II. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：16時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：鈴木、井村、長畠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：94%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：池上どろんこ保育園 施設長 鈴木 隆